
BAD☆BOYS

Blak Devil

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

B A D ☆ B O Y S

【Nコード】

N 2 5 8 2 I

【作者名】

B l a k D e v i l

【あらすじ】

天魔高校最強の二人組ユウヤと京介が仲間ともに泣き笑い喧嘩し恋愛して大人になっていく青春学園ストーリー

悪魔のような男

「なあユウヤそれぐらいにしとけよ・・・そいつ死じまうぞ」

ユウヤと呼ばれた男はゆっくりと振り返った

「うるせえなこれぐらいしねえと俺の気が済まねえんだよ」

と言うと男に向き直り

「てめえガン飛ばしやがってよおぶつ殺してやるよ!!」

殴られている男は恐怖で涙と鼻水で顔をぐしゃぐしゃにして泣き喚く

「もう勘弁してくれよユウヤ」

後ろで見ていた京介も言った

「もう勘弁してやれてユウヤ」

と言った瞬間ユウヤがその男を木刀で思いっきりひっぱたくと

「腹が減たしラーメン食いに行こうぜ」

京介はうずくまって泣いている男を指差し

「こいつどうすんだよ」

と言った。

ユウヤはタバコに火をつけながら

「ほっとけよ死にやしねえって。そんなことよりさっさといいこうぜ」

京介は男に同情しながらユウヤの後を追った

刺客現る 前編

「お前本当無茶するよな」

京介は呆れながら言った。

ユウヤはラーメンをすすりながら言った。

「あいつがガン飛ばすからわりいんだろうが」

「まあそれもあるけどあいつ死んでねえか？」

ユウヤも少し心配になったのか少し考えて、

「じゅああとで見に行くか」と言った。

ラーメンを食べ終わり外に出ると向こう側から5、6人が近寄ってきた。

その集団のリーダーらしき人物がうれしそうに話しかけてきた。

「あんた天魔高のユウヤと京介だろ？ ちょっとつきあってくれねえか？」

ユウヤが興味なさそうに

「てめえらなんぞに付いてく筋合いはねえよ出直しな」

リーダーらしき人物が完全に戦闘モードの顔で、

「いいから来いってんだろうが！！！！」

と言ったがユウヤ

「嫌だね」としか言わない

京介は面倒くさそうに「俺らに用でもあんの？」と聞いた

「てめえらしらっばくれてんじゃねえぞ!!」

するとユウヤは思い出したように手を叩く

「ああさっき俺にガン飛ばしてきたやつか」

京介も納得して「ああ」と言った

「理由が分かったんならさっさとこい!!」

とリーダーが言う

ユウヤは「面倒くせえよ。ここでやりゃいいじゃん」と言った。

「

刺客現る 前編（後書き）

自分達より多い数の不良に囲まれてしまったユウヤと京介いたい
どうなってしまうのか!?

次回をお楽しみに!!!

刺客現る 後編

リーダー格の男が厳しい顔をこう言った。

「てめえ!!!!!! こんなところで喧嘩なんかしたら近所の人に迷惑だろうが!!!!!!」

と言った。ユウヤと京介は意外なまでの律儀さに感心した。

「まあさっさと済ませちまえばそんなに迷惑になんねえだろ W W W
ここでやろうぜ!」

とにこやかに言った。リーダー格の男もしぶしぶ了解した

「おい京介あのリーダーは俺にやらせろあとの奴はお前がやっていいからよ・・・」

「しょうがねえな俺はこいつらで我慢してやるよ」

「決まりだな。かかって来いよ!!!!!!」

ユウヤそう言うのと腕を組んで仁王立ちした。

r上等だあてめえあの世で後悔してもしらねぞ!!!!!!」

と言うなりユウヤに殴りかかってきた、しかしユウヤ冷静にそれかわし男にボディブローをたたきこみ続けて膝蹴り、アップー、ストレートを叩き込むと男倒れた

「どうしたあそれで終わりかあ!!!!!!」

とユウヤが怒鳴っても男はうめき声しかださない

「それぐらいにしとけて」

「何だよお前もかたずいたのかよ?」

「まあな、こいつら雑魚だわ W W W W」

「もう行こぜ、なんか飽きた」

背を向けて去ろうとすると後ろから声が聞こえた

「てめえら覚えてろいつかぶつ潰すしてやるからな・・・!!!!!!」

「楽しみに待ってるぜ! じゃあな」

「なあユウヤ明日学校だるいからよバックれようぜ」

「馬鹿！何言っただよ明日からは誰が一年仕切るか決めるんだろ
うが！！明日から戦争だぜ！？戦争！！」

「ああそうだったな！まあもちろん俺らが仕切るに決まってるけど
なw」

「あたりめえだろ？勿体ねえから明日から遅刻すんじゃないぞ！！」
「おう！！」

ユウヤと京介は珍しく夜通し街を徘徊することなく家に帰った。

刺客現る 後編（後書き）

次回をお楽しみに！！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2582i/>

BAD☆BOYS

2011年1月5日02時35分発行